

インクルーシブの窓



令和6年1月 富山県教育委員会県立学校課特別支援教育班

インクルーシブ教育推進員の学校訪問日記～その3～



「1人1台端末の効果的な活用の広がり」

H小学校の6年生の学年集会。テーマは「卒業に向けて、相手にどんな気持ちを伝えたいか？」で、全員がグループに分かれて話し合い、そこでまとまった自分の考えを、各自のタブレットに入力していきます。

入力された自分や友達の考えは付箋になっていて、画面上で動かして見ることができます。口頭での発表だけでは集中しづらく聞き漏らすことがあるAさんは、付箋をタップして拡大したり、グループ分けする操作をしたりして、友達のいろいろな意見に触れていました。

T小学校の総合的な学習の時間。3年生の子どもたちは、事前に各自のタブレットで撮影した校舎のいろいろな場所の写真を見比べ、友達や身近な人に紹介したいお気に入りの1枚を選んでいました。大人が見過ごしそうな校舎の細部ばかりを写していたBさんは、担任の先生に視点のユニークさをほめられ、写真がモニター画面に大きく映し出されて紹介されると、照れくさそうに笑っていました。

続いて、各自が選んだ写真にコメントを入力していきます。ローマ字入力が苦手な子どもは、かな入力をしたり、ローマ字入力表を使ったりしています。キーボードを打つ音だけが響く教室内で、担任の先生は机間巡視をして一人一人に声をかけています。子どもたちが安心して取り組める環境づくりがなされていました。

S小学校の3年生の社会科の授業。「消防所の役割を調べよう」という学習課題のもと、子どもたちはインターネットや図書室の本、教科書を自由に使って情報を集めています。情報を得る方法を自分で選択することによって、意欲的に調べ活動に取り組んでほしいという担任の願いがありました。特別支援学級に在籍するCさんは、自分と同じくタブレットで調べている友達に話しかけ、分かったことを伝え合ったり、発表することを相談したりしていました。

I C Tは、子どもが視覚的な手がかりを基にして主体的に学ぶことが可能になるツールであると先生方は話されます。各学校ではI C T活用が進められ、障害の有無を問わず子どもの可能性を引き出し、個別最適な学び、協働的な学びを実現していこうとする実践的な追究が行われています。

学校で出会った素敵な教材②



小学校高学年の話し合いでの意見のまとめ方を、子どもたちが大好きなラーメンに例えて視覚化しました。

自分の意見を整理して伝えるとき、自分と友達の意見を比べるときに、どの子どもにもイメージしやすい手がかりツールになっています。

学級では、話す・聞く等の言語活動が活発に行われるようになってきています。